

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400041		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム湖西 (1F、2F合同)		
所在地	静岡県湖西市鷺津2522-33		
自己評価作成日	平成23年7月11日	評価結果市町村受理日	平成23年8月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ai.gokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2298400041&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の、一人ひとりの人生が輝くようにとのホーム目標を掲げ、家族のようなではなく家族として時間を共有し、大切な人生をともに過ごすことを目指し、個々の利用者様を支えつつ、日々どう暮らしていくかを模索しています。週に1回以上は、外に出る機会を作ること目標に、普通に近い生活の継続が出来ればと取り組んでいます。
ボランティアの受入にも力を入れ、地域の方と触れ合える機会を持てるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浜名湖沿いの新興住宅地に立地し、良好なロケーションを擁する事業所である。施設なくオープンな体制の中で、利用者が暮らしの役割を務めることができるよう、掃除や食事の準備などの家事支援をともに取り組んでいる。開設当初から自治会の協力が得られ、地域において認知症の勉強会を開いたり、利用者の家族がボランティアを紹介くださるなど、1年という短い期間で地域と家族と事業所のリレーションを築いている。シフト業務に入ってしまうとそれに真剣に向かってしまう職員もまだ少なくなく、利用者の様子を把握し寄り添うことのできる職員が増えることが当面の課題であると管理者は感じている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 愛の家グループホーム湖西（1F、2F合同）	朝礼、夕礼時に唱和し、常に念頭に置くよう心掛けている。また、各会議で、ホーム目標の確認をしている。	開設から半年で大幅な職員交替があり、職員体制としては再スタートの状態である。多様な機会に話材とするほか、浸透の確認について個人面談の際行う予定でいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、行事への参加に心掛けたり、地域の方のボランティアの受入に力を入れ、交流の機会をもてるようしている。	地域の夏祭りや作品展、湖西歌舞伎などに利用者とは向いている。また、定期ではハーモニカと健康体操のボランティアを受入、随時ではマジックなどをはじめ多様なボランティアの受入実績がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常時、介護相談を受け付けており、昨年10月の介護教室の開催、今年は8月に、市の委託事業で、家族介護支援教室開催を予定中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、ご家族に参加いただき、ホームの活動状況を報告し意見いただいたり、防災訓練見学していただいたりし、地域との防災協力のあり方等情報交換している。	事業所の「一・二・三（ひふみ）だより」とともに開催案内を手渡しで届けている。また、会議ではパワーポイントを活用し、わかりやすく解説することも心がけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に、運営推進会議に出席いただいております。事業者連絡会も市の主導で実施している。	市の担当者は積極的に運営推進会議に参加くださっている。そのため、事業所側も常に安心して相談でき、助かっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止は、遵守し繰り返意識付けし、夜間以外の施錠はしていない。	年1回の研修で知識を共有化しているほか、「待って」というスピーチロックなど「ついやってしまった」というような事柄については管理者が都度個人指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会実施し、認知症を理解した対応とともに、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、まだ勉強の機会足りていないが、管理者は、よく理解しており、入居者家族と相談し、司法書士との相談や、利用の話し合いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、十分な説明、相談をし、ご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、ご家族様アンケート実施中。法人グループ他施設での家族アンケート結果も共有でき、サービス向上に生かしている。	法人独自のアンケートで家族の意見を収集し、運営に反映させている。それとともに、直に言ってもらえることを大切に考え、会って話をする機会をもつことを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人グループにて、職員アンケート実施予定。 また、日ごろから各会議等で職員の意見聞く機会設けている。	職員アンケートの予定され、普段から職員の意見を聴くよう努めている。物品購入など職員意見によって改善された実績もある。	経験の少ない職員もいることから、ケース対応の共有化などに取り組むことで、職員意見が広い視野のものになっていくことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価を年1回実施予定。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、内部研修については、毎月実施しているが、外部の研修参加はまだ少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム事業者連絡会への参加や、他事業所での見学実習等実施し、よい取り組みしているホームを学ばせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時のアセスメントや、ご家族からの情報収集に努め、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居相談の段階から、相談を重ね、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望や、ご本人がおかれている状況も勘案して、どのようなサービスが必要なのかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでも家族に近づけるようにとの思いで、ともに暮らすことをめざし、自分ならどうされたいかを考えつつ、ケアを考え関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事案内も含め、家族の協力の必要性・重要性は、そのつど伝え、面会等ご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、ご友人との面会を大切にしています。	在宅からの習慣の継続についての大切さを家族には伝えてあり、以前からの理美容に通い続けたり、墓参りや外食に家族とともに出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	さまざまな生活活動の場面で、利用者様同士の間関係作りが進むよう、またトラブルにならないよう見守り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話でのやり取りや、ご本人への面会などで、経過のフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なじみの美容院、床屋など、個別の希望に、出来る範囲でこたえられるよう支援している。	定期的にあセスメントを取り直し、現在の状態把握に努めている。また、日々多様なアプローチを試み、興味・関心を示してくれるものを模索している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントで把握に努めるとともに、入居後もご本人や、面会の方からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や、申し送りノートなど活用し、経過情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて話し合っている。家族参加が難しいため、面会時や、電話にてご意見をいただいている。	担当制をとっており、プラン作成やモニタリングの際に意見を出してもらっている。カンファレンスは全員で取り組んでいる。	担当が1名のため、管理者や計画作成担当以外の客観的な意見も加わるよう工夫を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、介護記録を活用し、朝夕礼にて申し送りしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応する方法を、常にどこまで出来るか、柔軟な発想のもと検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご友人の面会支援を家族にお願いしたり、地域の方のボランティア交流の機会など設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診と、必要に応じての受診介助し、家族には、継続的なかかりつけ医への受診の協力も一部頂いている。	月1回、事業所のかかりつけ医の往診がある。また、個々の受診支援は家族の協力も得て行われている。薬剤録と個人ファイルに情報を保管し、共有化している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師兼務のため、常に利用者の健康状態については、報告相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻回に面会にて、入院治療状況の把握に努めるとともに、普段から相談員との関係も築きつつ情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、意向確認しておくとともに、状態の変化に応じ、常に家族と相談しながら、地域の医療施設等関係者とも相談しながら支援している。	入居時に説明し、合意形成している。状態変化に応じて、都度家族の希望を確認しつつ、適切なサービスのできる施設との橋渡しをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修の実施や、実際に対応した後の反省会にて、全ての職員が、適切な対応とれるよう周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の訓練計画に基づいて実施している。 運営推進会議でも、地域の方に見てもらい、意見をいただくとともに、今後の協力もお願いしている。	5月に開催された運営推進会議においても、避難訓練についての振り返りの場があり、熱のある意見が交わされ、具体的な改善案もだされている。津波を想定して、2階への移動訓練も実施した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者様の生活史などの把握と、現在の状態の把握に努め、プライドに配慮した対応ができるよう努めている。	アセスメントや心身の状態把握に努めていることは確認できるが、「後ろからの声掛けはNG」といったマナー的な面について職員に凸凹が見られる。	「トイレや居室のドアはノックしてから開ける」といった基本となるハウスルールを整備していくことを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望を聞きつつ、分かりやすく選択できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだある程度のプログラムからの中での選択にとどまっている。今後より自由な選択への対応を工夫していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択等、希望を聞きつつ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や、盛付、あとかたづけなど出来る範囲で、利用者に参加していただけるよう支援している。	季節の野菜や果物を取り入れ、また一つひとつが丁寧に下ごしらえされ、ひと手間かけたプロの味わいがある。準備や後片付けを職員とともにし、食事中も職員が間に入り、和やかな時間を過ごしている。七夕や丑の日といった行事食、誕生日食にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別にチェックし、必要に応じて申し送り、経過の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別の能力に応じて声かけ支援し、口腔の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンチェックを必要に応じて実施し、誘導パターンを作ったり、オムツはずしにも取り組んでいる。	パターン把握による誘導の結果、リハパンが布パンに替わった利用者もいる。また、全国に百余の事業所を擁する法人のため、消耗品の購入量も多く、そのためリーズナブルな価格で提供できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックしつつ、個々の体調に応じた排泄援助実施している。根菜中心のメニューや、食物繊維、乳製品の活用等も工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後1時半～4時を、入浴時間とする中で希望や、体調に応じた入浴支援をしている。	入浴を希望しない利用者に対しては、希望を受容しつつ適切な誘導することにより最低でも4～5日に1回以上入浴できている。マンツーマン対応であり、入浴中に会話などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息できるように配慮しつつ、夜間の睡眠も確保できるよう生活活動へのお誘いもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や、注意点の周知に努め、経過観察しながらの服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活活動を個々の能力に応じて割り振り、役割として出来るよう支援している。能力や、気の合う方同士での、外出や、レク活動の支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物、散歩、外出レクの機会を作り支援している。ご家族による外出支援や、行事参加もお願いしている。	気候と体調のよい日は浜風を満喫しながらの散歩を楽しんでいる。また、玄関に縁台とすだれを備え、朝夕の外気浴にも取り組んでいる。また、食材や日用品の買い出しに近隣の商業施設などへも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族希望で、携帯電話使用されている方もあり、ホームの電話も、希望あれば使ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるような掲示、装飾に心掛けている。	利用者と職員とで作った季節の貼り絵や折り紙が飾られ、充実した時間を過ごしたことが感じられる。朝掃除の際に換気も心がけ、温度計・湿度計の設置もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別の席を決めているとともに、そのときの状況に応じて、個々がゆっくり出来る場所作りを支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と相談しつつ、本人が暮らしやすい空間作りを支援している。	エアコンとクローゼットが備え付けられているが、カーテンやベッド、整理棚など好みのものを持ち込んでいる。仏壇やテレビなどもあり、居室毎に特徴があり、それぞれがこれまでの暮らしのまま生活していることが覗える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内表示等工夫しつつ支援している。		